



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

沿岸海洋環境の診断・評価
ならびに沿岸漁場環境の保全・修復

中田 英昭 (なかた ひであき)

長崎大学 名誉教授



○ 登録者情報

所在地

長崎県長崎市

略歴

1977年 東京大学大学院農学系研究科博士課程(水産学専門課程)修了 農学博士の学位取得

1977-2000年 東京大学海洋研究所に勤務

2000年 長崎大学水産学部に異動

2011年 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

2006-2011年 長崎県水産人材バンクに登録

2007年- 地域再生人材創出拠点の形成事業(科学技術振興機構)

「海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生」

(2007年度:総括責任者、2008-2011年度:運営委員および共通科目(海洋環境)担当者)

著書・論文等

「水産海洋環境論」(共編共著), 恒星社厚生閣 (1987年3月)

「沿岸の環境圏」(共編共著), フジ・テクノシステム (1998年8月)

「沿岸海域の環境再生—その方法論と課題」, BIO-City, 19, 42-47 (2000年11月)

「内湾の環境再生:海外の事例に学ぶ」, 水環境学会誌, 25, 590-595 (2002年10月)

「海洋環境保全のためのモニタリング」, 遺伝, 57, 89-94 (2003年3月)

「海健康診断—その実践に向けて」, 海洋白書2006, 成山堂書店, 72-76 (2006年2月)

「新版水産海洋ハンドブック」(共編共著), 生物研究社 (2010年3月)

○ 沿岸海洋環境の診断・評価 ならびに沿岸漁場環境の保全・修復

取組の内容

2000年に長崎大学に異動してから、地域の大村湾や有明海等の環境調査を行っています。

2007年に、長崎県の水産業を担う社会人の教育を目的とする「海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生」プログラムを開始し、水産関係者と一緒に漁場環境の保全・修復に関する現場の問題に取り組んでいます。

大村湾では、貧酸素水塊観測情報システム協議会(2009-2011年度、長崎県環境部環境政策課)および海健康診断を活用した大村湾の環境評価に関する調査研究委員会(2009-2010年度、長崎県と海洋政策研究財団の共同)の座長として、環境の現状診断等に貢献してきました。それらの成果を2010年2月および2011年2月に長崎県主催のシンポジウムで地元住民等に報告しました。2011年からは長崎県等の協力を得ながら、大村湾の環境修復に向けた具体的な取り組みを開始しています。

実績

「海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生」プログラム 受講者数

2007年20名、2008年15名、2009年15名、2010年12名

大村湾シンポジウム 参加者数

2010年2月 約150名、2011年2月 約150名

工夫した点や苦勞した点

沿岸海域の漁場等の環境問題を解決するには、総合的・多面的な視点を持つとともに、目的意識を共有しながら関係者が連携して取り組む体制を構築することが大切です。現在取り組んでいる大村湾の環境修復プロジェクトでも、関係者とくに漁業組合等の理解と協力を得るために手順を踏みながら丁寧に説明を行いました。

ひとことPR

これまで様々な海湾で環境の現場調査やデータ解析を行い、環境の現状診断・評価とそれに基づく環境修復計画の検討等の課題に取り組んできました。そうした知識や経験を活かすことができればと思っています。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	○	10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

長崎大学水産学部	http://www.fish.nagasaki-u.ac.jp
----------	---

連絡先

メールアドレス	nakata[アットマーク]nagasaki-u.ac.jp	その他	
---------	--------------------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る